

背景・課題

風評による販売棚の喪失

- 7年が経過し、棚が他産地へ置き換えられ、価格水準の低下が固定化。
- 安全な農産物への関心の高まり。

産地間競争の激化

- 風評対策等原子力災害対応に追われ、産地強化対策に遅れ。
- 販売単価の低迷、コスト上昇による経営環境の悪化

生産構造の脆弱化

- 農業従事者の減少と高齢化が急速に進展し、担い手が絶対的に不足してきているとともに、生産基盤が減少。

中山間地域等の活力低下

- 従事者減少や鳥獣被害等により農業生産活動の維持が困難となる地域が顕在化。

TPP11等の交渉妥結 TAGの交渉開始

- 関税削減等への対策が必要

施策の方向性

販路の拡大

- 消費者等の理解促進
- 販売棚の獲得
- 海外を含めた販路拡大
- 安全な農産物の生産
- 有機農業の推進

産地の生産力・競争力強化

- 低下した生産力の強化
- 農畜産物の高品質、高付加価値化
- ブランド確立を図る取組の強化

多様な担い手の育成・確保

- 新規就農者の安定確保・定着
- 担い手の経営体質の強化・所得の確保
- 法人化や企業参入等による持続的な生産構造の確立
- 若い世代の農業への関心向上

中山間地域活性化

- 地域資源を活用した所得の確保
- 魅力ある農山漁村の地域環境の維持・向上

必要な対策の検討

※**赤字**は委員からの事前意見を記載したもの

※**黒字**は本県農業をめぐる状況から考える取組